

すが え ま す み の は か
菅江真澄墓

- 1 種 別 史跡
- 2 名 称 菅江真澄墓
- 3 面積及び法量 35㎡（墓所、参道）
墓碑 高107cm、幅42cm、厚30cm
- 4 所 在 地 秋田市寺内大小路137番地
- 5 所 有 者 秋田市
- 6 説 明

菅江真澄墓は、秋田市寺内大小路の寺内共同墓地内にある。

菅江真澄は江戸時代後期の紀行家である。宝暦4年（1754）頃、三河国（現愛知県東部）で生まれた真澄は、享和元年（1801）以降の28年間、秋田に留まり、領内を遊歴した。

旅先で自身が見聞、体験、観察したことを客観的な筆致、描写で記録し、編まれた地誌、日記、随筆類は200冊を超える。そのうち、「菅江真澄遊覧記」77冊12帖は重要文化財に、「菅江真澄著作」46点は県指定文化財となっている。

真澄は、文政12年（1829）に神代村梅沢（現仙北市田沢湖町）の肝煎大石家あるいは角館神明社の神官鈴木家で死去したとされる。遺骸は寺内村（現秋田市寺内）に運ばれ、神官鎌田家の墓所に葬られた。天保2年（1831）の三回忌を期して墓碑が建立された。

墓碑正面中央には「菅江真澄翁墓」と陰刻され、その周囲に真澄と親交の深かった久保田の国学者鳥屋長秋とやのながきによる万葉調の長歌が刻書される。長歌は詞書、本文、作者名で構成され、本文には真澄の出自、業績、死去までが記されている。また、右側面には「文政十二己丑七月十九日卒年七十六七」と没年月日、年齢が刻まれる。

明治42年（1909）には没後80年祭が執り行われ、その記念事業の一環として墓碑の改修が実施された。墓碑下には台石が置かれ、墓碑の向きも変更された。墓碑は当初南向きであったが、これでは隣接する鎌田家の墓所を通過して参拝しなければならず、墓参者の便宜を考えて現在の西向きとされた。

菅江真澄墓は、近世秋田における民俗、歴史、地理、宗教、本草などの記録を残した真澄の業績を後世に伝えるものとして貴重である。

参考

秋田市指定史跡「菅江真澄の墓」昭和37年（1962）4月9日

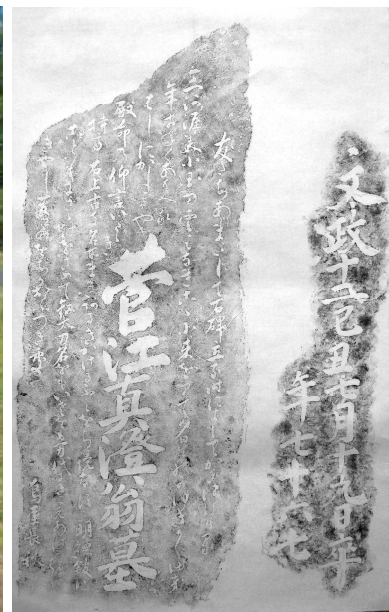
参考文献

内田武志「墓碑建立」『菅江真澄全集』別巻一 未来社 昭和52年（1977）10月25日

豊橋市美術博物館『菅江真澄展』豊橋市美術博物館開館20周年記念 平成11年（1999）8月31日

松山修「真澄研究の一こま 石川理紀之助」『真澄研究』第5号 秋田県立博物館 平成13年（2001）3月20日

秋田県立博物館『真澄紀行』菅江真澄資料センター図録（改訂版）平成23年（2011）6月



友たち あまたして
 石碑立る時によみてかきつけける
 三河ノ渥美小国ゆ
 雲はなれ こゝに来をりて
 夕星の かゆきかくゆき
 年まねく あそへるはしに
 かしこきや 殿命の
 仰言 いただき持て
 石上 古き名所
 まきあるき かけるふみをら
 鏡なす 明德館に
 ことゝに さゝけをさめて
 剣太刀 名をもいさをも
 万代に きこえあけつる
 はしきやし 菅江のをちか
 おくつき処

鳥屋長秋

上左：墓所全景 上右：墓碑
 中左：参道 中右：墓碑拓影図
 下：長歌銘文（墓碑脇の説明板）